

2020 年度「自立援助ホーム支援助成」助成事業実施報告書

団体名 自立援助ホームいっぽ

代表者・役職名 氏名 管理者 井上 陽子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

自立援助ホームいっぽの移転後の環境整備及び社会的養護の理解を深める講演会活動

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

当ホームは特定非営利活動法人なごやかサポートみらいが運営母体です。法人は2008年に発足され、会員数約64名。当事者団体として社会的養護の子どもたちの「自立の困難さ」に注目し、自立支援の問題解決に取り組んでいました。県内の里親サロンで里子や施設出身者と語り合う中で、自立援助ホーム開設の必要性を確認し、2015年に準備委員会を発足し、自立援助ホームいっぽを開設した。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

社会的養護の出身者は他者を信じるのが苦手なように感じます。それは幼少期に安心感を生み出す親から愛されなかったことや愛情の欠如が招く弊害でしょう。他者を信じられない施設出身者は仕事の悩み、お金の悩み、人間関係等、多くの悩みを自分だけで解決しようとしますが、一人では限界があります。そこで、児童養護施設、里親、自立援助ホームという様々な形で育ってきた子たちのバリエーションから彼らの抱える問題の根深さを知り、社会的養護についての理解を深める場として講演会を開催すべきだと考えております。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

【環境整備事業】 自立援助ホームいっぽの建物は耐震強度の問題により移転することになりました。移転後の建物では定員数を6名から最大9名に増加させていく予定です。そのため、定員増加に伴い食事用のテーブル、椅子、調理用具等を一新させたいと考えております。

【講演会活動】 いっぽ退所者からの聞き取りで分かり始めた自立して生活し続けることの困難さ。この困難さを社会に訴えかけ社会的養護の理解者を増やすことを目的とした講演会活動の2つが事業の柱になります。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPUCT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

講演会の参加者は90名。当日の参加者は70名前後。前後としているのはZoomの参加者は変動があります。成果については感想分も添付いたしますので、読んでいただきたいです。参加者の中には自分に何ができるのかを考えるきっかけになった方もいました。また、いっぽの入所児童の中には「数年後に自分がパネラーとして話したい。」と言ってくれる子がいたことも、意外な成果でした。直接的な変化として、社会的な変化は講演会を聞いて下さった参加者にしか与えられていないです。今後、1年に1回にペースで当事者が語る場を作りたい。この講演会を継続していくことで社会的養護の理解者が増えるという効果が現れると信じております。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

助成金の申請を行いながら、講演会活動を継続して行っていく予定。開催頻度等は年に1回。次の講演会では退所した女性からの話を聞く場を設けたい。社会的養護の男性と女性では抱える悩みが違うことも社会に理解してほしい。また、子育て中の方にも話をしてもらうことも大切だと考えている。子どもを産み、育てられないという社会的養護の連鎖を止めるためにも子育て中の苦悩という点にスポットを当てるべきではないか。様々な切り口から講演会を実施する予定。

7. 参考資料

支援対象事業で作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

2020年
11/29日
13~17時まで



QRコードを読み取り、申込フォームに必要事項を記載してお申し込みください。
11/15締切

「自立援助ホーム いっぽ」より、登録頂いたアドレスへ参加のためのURLを送信致します。

当日、開始時刻にURLをクリック頂いて参加完了

QRコードが読み取れない方は、いっぽHPのお問い合わせよりお申し込みください。

居場所を見つけた子どもたち ― 虐待を生き抜いて ―

パネル・ディスカッション

虐待などで親と生活できない子どもたちが全国で約4万5千人います。彼らは養護施設や里親家庭、自立援助ホームなどを新たな居場所として未来に向かって懸命に生きてます。悲しみ・怒り・希望…彼らの声に耳を傾けてみませんか。



1部…現場からの報告

- ◇ 中日青葉学園 副学園長 寺井 陽一さん
- ◇ 自立援助ホームいっぽ ホーム長 青木 佑磨さん
- ◇ 専門里親 井上 陽子さん

2部…パネル・ディスカッション

パネラー

▶ Y 君 (20歳)

3歳から14歳まで養護施設、15歳から20歳まで里親家庭で生活。普通高校に進学するも中途退学し通信高校に。卒業後自立。現在は正社員として働き、社員寮で一人暮らし。

▶ K 君 (21歳)

母親と二人で生活していたが17歳のとき母親が病死したため自立援助ホームに入所。高校卒業後専門学校に進学、一人暮らしをしながら奨学金やバイト代で学校生活を送っている。

▶ T 君 (23歳)

6歳から18歳まで養護施設で生活、高校卒業後専門学校に進学し一人暮らしを始めたが進路変更、家庭復帰をして大学の社会福祉学部に入學。卒業後、養護施設職員として勤務。

コーディネーター

平井 誠敏さん〈自立援助ホーム慈泉寮 寮長〉

主催



特定非営利活動法人
なごやかサポートみらい

後援

愛知県・愛知県社会福祉協議会
全国自立援助ホーム協議会・中日新聞社会事業団
愛知県里親連合会・愛知県児童福祉施設長会

この事業は真如苑の
助成を受けて実施
しています。

<お申し込み・お問い合わせ> 自立援助ホーム いっぽ

TEL : 0568-93-6306

携帯 : 090-1750-7770

E-mail : ippo.mirai@gmail.com

活動報告用の写真



フライパン、ステンレス鍋



コードレス掃除機



8人用食卓・椅子